ヨシナカ新聞

3月号
発行所
㈱北陸ヨシナカ
東京営業所
TEL:03-3555-0796

青梅の昭和幻燈館

先月号の『昭和レトロ商品博物館』、『赤塚不二夫会館』に引き続き東京都青梅市の情報です。「昭和の街」をテーマに街づくりを進めている青梅市。『昭和幻燈館』の中はまさしく「昭和」そのものでした。壁に張られた手書きの映画看板は昭和35年生まれの私でさえも実際に見た事のない年代もの。この頃はこういった看板がたくさん見られた事でしょう。

そして、ジオラマ作家の山本高樹さん作の古い昭和の生活を表現した作品もたくさん展示されていました。眺めていると昭和にタイムスリップしたような素晴らしい作品にその場を離れ難い気持ちになってしまいました。

ステンレス豆知識

SUS430

SUS304と比較しますと、SUS430はニッケルが添加されていない為、鉄-クロム合金のフェライト組織を形成します。非磁性のSUS304(オーステナイト組織）に対してフェライト組織のSUS430は強い磁性を持っています。ステンレスは鉄のまわりにクロムの酸化被膜を形成し（不動態被膜)、ニッケルがそれを保護する役目を果たしますが、そのニッケルが入っていないSUS430はSUS304と比較して耐食性が劣ります。ただしニッケルを含まない為、SUS304より安価でマグネット固定が出来るので、同時研磨によるコストダウンが可能になります。

機械的性質はSUS304と比較して加工後の伸びが小さく、加工硬化性が小さい鋼種です。

花粉とPM2.5とマスク

花粉の季節がやって来ました。なんと今年の花粉の飛散量は昨年の7倍だそうで、花粉症の方にとっては、大変な時期を迎えています。

また、ニュース等でご存知だとは思いますが、PM2.5という有害な粒子が中国から季節風に運ばれて日本に飛んで来ています。それはとても小さな粒子の為、気管を通過しやすく、肺胞など気道より奥に付着するため、人体への悪影響が大きいと考えられています。代表的な微小粒子状物質であるディーゼル排気微粒子は、大部分が粒径0.1～0.3μmの範囲内にあり、普通の花粉症用のマスクだと、目が粗すぎて、PM2.5の予防には役立たないと信じられています。でもこれは間違いだと、ラジオでわかりやすく説明していましたので、紹介させて頂きます。

まずは1千倍した世界をイメージしてみてください。1千倍すると髪の毛はコーヒーカップの直径くらい、花粉はピンポン玉くらい。PM2.5は手芸で使うビーズ玉くらいの大きさになります。

花粉症用のマスクの目の粗さは1千倍すると5mmくらいです。PM2.5は2.5マイクロメートルより小さい粒子という意味ですので、1千倍すると2.5mm以下で、確かにマスクの網の目を通ってしまいます。

しかし、ポイントは厚さにあります。1千倍するとマスクの奥行きは1メールもあります。PM2.5が通り抜けるには網の目を200回はくぐらないといけません。そのうち網のどこかに当たってくっついてしまいます。インフルエンザでしたら、少しでもウィルスが入ると病気が移ってしまいますが、PM2.5は吸い込む空気が実質的に環境基準以下でしたら病気にはなりません。ですので、専用のマスクを買わないでも、花粉症用のマスクで充分対応可能という訳なのです。（参考：吉田たかよしブログより）

K社員のフルート奮戦記

人前での初めての演奏

とうとう演奏する時間がやって来ました。緊張の中、スタジオの奥の演奏する場所にNさんと二人並んで立ちます。人前でそれも10人以上の前でフルートを演奏するのは初めての経験ですので、フルートを持つ手が震えていたらどうしようと怯えていたのですが、一応震えていません。第一関門クリアです。そして次に音が出るかどうかです。キーを合わせる為『ラ』の音を吹きます。第二関門もなんとかクリア。

そして、第三関門、そう、肝心の演奏です。Nさんと目でリズムを合わせて童謡『故郷（ふるさと）』を吹き始めます。練習で調子が良い時の7割くらいの音ですが、まあこれで良しとしよう！と、自分に言い聞かせながら吹きます。ただ、一番困ったのは練習時より息が続くなくて、決めていた息継ぎの箇所まで呼吸が続かず、池の鯉みたいなパクパク演奏になってしまった事でした。